

専門内科の御紹介

4月から神経内科外来を開きます

4月3日から、毎週金曜日午前に産業医科大神経内科教室からの御支援で神経内科外来を開きます。

高齢化にともない、認知症が増加していますが、認知症の原因はさまざまです。一般的にアルツハイマー病が多いとされていますが、最近ではレビー小体型認知症も少なくない頻度であるという報告もあります。また、見逃してならないのは、正常脳圧水頭症による認知症です。これは、治癒する可能性がある認知症です。

認知症は原因診断を確実に行う必要があります、このためには、専門医による診断が重要です。

また、アルツハイマー病は早期からの治療が大事で、これにはやはり専門医の力を必要とします。また、当院のMRにはVSRAD advance（早期アルツハイマー病診断支援システム プログラム）を導入しています。

軽度認知障害（MCI）の診断も、認知症への移行を遅らせるという意味で重要ですが、診断は非専門医にとって難しく、専門医の力を必要とします。

神経内科外来 毎週金曜日 午前中 担当 小畑雅子先生（産業医科大学神経内科）

血液内科の御紹介

毎週金曜日午前中に産業医科大血液内科の御支援で血液内科外来を開いています。

高齢化に伴いさまざまな原因の貧血が増えてきていると思います。貧血の発見から、他の重要な疾患の診断につながることもあります。貧血の原因診断を正確に行うことが大事です。原因不明の貧血の患者さんがおられたらご紹介ください。

血液内科外来 毎週金曜日 午前中 担当 中西司先生（産業医科大学 血液内科）

経口剤によるC型肝炎治療の手ごたえ

社会保険直方病院 内科 東 宣彦

以前の直方病院レターで書きましたが、昨年9月よりインターフェロンを用いないC型肝炎治療が可能になりました。当院でも今年2月までに28例のC型肝炎患者に対して、経口2剤によるダクラタスビル・アスナプレビル併用療法を導入いたしました。

ウイルスが消失するまでの期間も従来の治療と比べて短く、4週経過している26例のうち、21例（80.8%）が4週までにウイルスが消失しており、8週経過している22例のうち、21例（95.5%）が8週までにウイルスが消失しました。早い症例では2週でウイルスが消失しました。ただ、耐性ウイルスによるものと思われる、治療中にウイルス量が増加した患者が1例あり、この患者は治療無効で中止となりました。副作用も当院で治療中の患者では、軽いもののみであり、副作用にて治療を中止せざるを得なくなった患者は幸い当院では1人も出ていません。

発売時の適応では、1型のC型慢性肝炎またはC型代償性肝硬変であり、インターフェロンを含む治療法に不適格の未治療あるいは不耐容の患者とインターフェロンを含む治療法で無効となった患者となっていました。このレターが発行される頃には、適応が拡大され、初回治療やインターフェロンを含む治療法での再燃となった患者も投与可能になっているものと思われます。

2型のC型慢性肝炎とC型代償性肝硬変に対する経口剤による治療も3月5日に厚労省の薬食審医薬品第二部会で承認を了承されており、5月にも発売になるものと思われます。これで、ほぼ全てのC型慢性肝炎とC型代償性肝硬変が経口剤での治療が可能になります。

治療を受けたことがない患者さん、以前の治療でウイルスが消えなかった患者さんがおられましたら、是非ご紹介をお願い申し上げます。

Charcot3徴は感度が低い 胆道系疾患の診断から治療まで円滑に行っています

社会保険直方病院 外科 新屋 智志

Charcot 3 徴（発熱，腹痛，黄疸）という言葉をご存じでしょうか？急性胆管炎の際に出現する症状として1877年にフランスの神経内科医（消化器内科医ではありません）Jean-Martin Charcotが「肝臓熱」として報告し、その後長きに渡って急性胆管炎の診断基準として広く用いられてきました。しかし実際にはCharcot 3 徴の感度は低いことが現在分かってきました。

胆道（胆嚢や胆管）に生じた感染症のことを胆道感染症といますが、結石や癌などが原因となり感染を引き起こし、放置すると敗血症に至り時に生命に関わる重篤な病態であるのは、周知の事実です。多くの症例は、何らかのinterventionalな治療や場合によっては手術が必要になり、保存的治療のみで完治できる症例は、ほとんどありません。しかしながら現実的には、いたずらに抗生剤のみでお茶を濁しているような治療を見かけることが少なくはありません。胆石は、とてもcommonな疾患ではありますが、意外とその治療には専門性を有し、その治療選択を誤ると患者さんにとっては、一生に関わる病態にもなりえます。

当院は、福岡大学胆膵チームの応援体制を整え患者さん一人一人の病態や状態にあった治療戦略を検討後、内視鏡や経皮的なドレナージ、それらを用いた結石の治療、胆嚢結石に対しては腹腔鏡下胆嚢摘出術を行って当院で治療完結できるように努めています。また悪性疾患である場合は、高度な専門的知識と技術が診断と治療に要しますので、積極的に福岡大学消化器外科胆膵チームにコンサルト・治療依頼を行い、診断から治療までを円滑に行うことができます。胆嚢結石や総胆管結石等の胆石や原因不明な閉塞性黄疸等の胆道疾患が疑われる場合は、是非当院に御紹介頂ければ、患者さんに合った至適治療を目指したいと思います。今後とも御指導・御鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。



一般財団法人 福岡県社会保険医療協会

社会保険直方病院

Social Insurance Nogata Hospital

〒822-0024 福岡県直方市須崎町1番1号

TEL 0949-22-1215 FAX 0949-24-1302

<http://www.nogata-hp.jp>